

こんにちは。
町長です。



尾ノ内百景(冷つけえ〜)氷柱事業について

大変寒い日が続いておりますが、町民の皆様にはご健勝のことと存じ上げます。

さて、寒さは体に応えますが、寒くないと困る事業がございます。それは、三田川河原沢の尾ノ内百景(冷つけえ〜)氷柱事業

です。この事業は、皆様は既にご案内のことと存じますが、今年で10年目になります。

尾ノ内溪谷は、両神山から流れ出る尾ノ内沢が作り出した溪谷です。氷柱事業が始まる前から県営林道が入り、小鹿野町でも休憩舎やトイレ、つり橋などの事業を進め、春の新緑、夏の冷涼感、秋の紅葉の3シーズンを通した観光レクリエーションエリアとして整備を進めておりました。

そのような中で、冬季はお客様が途絶えてしまうことから、西秩父商工会青年部三田川支部(当時)で色々協議した中で、溪谷の寒さを逆手に取り、人工的に氷柱を作って売り出したらどうかということで始まったのが現在の氷柱事業とのことです。

しかし、何と言ってもはじめての試みであり、色々な試行錯誤を繰り返しながら、現在のような姿に成長してまいりました。溪谷の水を上流からパイプで引いてきて散水し、氷柱を作る訳ですが、そのパイプを引くことも大変危難な作業であり、事故を恐れずボランティアで皆さ

ん真剣に取り組んできました。若い皆さんの冬季に町の観光名所を作りたいという熱意がここまでこの事業を推し進めた要因であると思います。

現在、尾ノ内溪谷氷柱実行委員会(会長 北孝行氏)が組織され、事業が進められています。また、河原沢地区住民による河原沢よつせー委員会(会長 小坂忠一氏)も立ち上がり、お客様へのおもてなし事業(甘酒の無料提供や郷土食の販売など)も行われております。昨年は来場者数も4万人を超え、町を代表する冬の観光名所になりました。本年も多くのお客様が来訪するものと思います。

このような活動の成果が認められ、昨年11月に尾ノ内溪谷氷柱実行委員会は、埼玉県からシラコバト賞を受賞されました。現在、同実行委員会が技術的な指導をして作られた、横瀬町のあしがくぼの氷柱をはじめ、秩父市大滝地区の三十槌の氷柱、そして尾ノ内溪谷氷柱が秩父三大氷柱として人気を博し、観光バスツアーが組まれ秩父地域にお客様が訪れております。

このように冬の寒さというマイナス面を逆手に取り、民間の活力で無から有を生じさせた地域住民活動は大変素晴らしいものです。この事業は埼玉県内はもちろんですが、全国に誇れる事業であり、町としても最大限の支援と協力を進めてまいり所存です。

小鹿野町長 森 真太郎